

## 令和4年白老町議会産業厚生常任委員会会議録

令和4年10月19日（水曜日）

開 会 午前10時30分

閉 会 午後 3時28分

---

### ○会議に付した事件

所管事務調査について

1. 集中豪雨等の災害時における水害対策について（事務調査及び現地調査）
  2. 委員会道外視察について
  3. その他
- 

### ○出席委員（7名）

委員長 広地紀彰君

副委員長 森 哲也君

委員 及川 保君

委員 西田祐子君

委員 久保一美君

委員 長谷川 かおり君

委員 貳又 聖規君

---

### ○欠席委員（なし）

---

### ○説明のため出席した者の職氏名

建設課長 瀬賀重史君

建設課主幹 湯浅昌晃君

---

### ○職務のため出席した事務局職員

事務局長 本間 力君

主 査 八木橋 直紀君

---

## ◎開会の宣告

○委員長（広地紀彰君） ただいまより産業厚生常任委員会を開会いたします。

（午前10時30分）

---

○委員長（広地紀彰君） 定例会9月会議で報告したとおり、10月からは集中豪雨等の災害時における水害対策についての調査をいたします。

本日は、担当課より説明を受け、午後1時より現地調査を行った後、再度役場に帰って委員会意見のまとめを行い、12月会議にて報告したいと思っております。担当課及び委員の皆様おかれましては、長丁場となりますがよろしく願います。

それでは、事前に配付した資料に沿ってご説明をいただき、その後質疑を行ってまいります。担当課より、瀬賀建設課長、湯浅建設課主幹がお見えになっております。本日はよろしくお願いいたします。

それでは、説明をお願いいたします。

瀬賀建設課長。

○建設課長（瀬賀重史君） 本日は、集中豪雨等の災害時における水害対策についてというテーマになりまして、建設課にて対策を行っている事務事業について簡単に資料を作成し、配付させていただきました。資料に沿って説明いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

資料は、A4の資料が表紙の1枚を含めて12枚、A3横版の資料が資料1から資料7まで8枚組の資料としてお配りさせていただきました。文字が小さくて見づらい部分があるかもしれませんが、モニターも使いながら説明させていただきますのでご了承願います。

水害対策についてというテーマであります。最初のほうでは水害の起こりやすさとか、過去の災害について少し説明をさせていただいて、そこから実際に行っている水害対策、工事対応、災害パトロールなどについて話を進めさせていただきます。

資料は事前に配付させていただきましたので、全て読み上げますと時間がかかってしまいますので、各項目の要点部分について説明させていただきます。

A4資料の1ページをお開きください。

1、白老町の位置及び面積、地勢となっておりますが、こちらは記載のとおりとなっておりますので説明は省略させていただきます。

2、気候になります。白老町の気候の特徴を記載しております。皆様ご存じかと思いますが白老町は雨が多いところでありまして、重要なところとしては、年間の降水量は平均1,500ミリメートルとなっております。北海道の他の地域と比べても多く、特に背後には樽前山、白老岳、ホロホロ山、オロフレ岳など山間部となっております。南側に緩傾斜をもった扇型に地形が開いており、下辺が急傾で海岸に連なっていることから、低気圧などが北海道の南側を通ると、東から南寄りの風が強くなり斜面にぶつかることで上昇気流が発生し雨雲が発達しやすく、こうした地形条件は胆振地方全体に共通しておりまして、室蘭・登別・白老地方は、道内でも有数の集中豪雨地帯として知られています。森野地区だけの降雨観測については、年間降水量平

均2,200ミリメートルとなっています。1 ページの下のほうに表1がございませう。白老町の降水量（年間総量と日最大）、1980年から2021年まで記載しております。この表のオレンジ色に着色された年が特に大きな水害の記録が残っているところとございまして、後ほど水害の歴史というページでも改めて説明させていただきたいと思ひます。

2 ページをお開きください。3、白老町の河川と水害の発生でございませう。白老町には多くの河川があり、南に面した太平洋に注いでいます。白老町のような周囲を山地に囲まれた台丘地と低地での街並みが構成されている場合には、集中豪雨に見舞われますと、河川流域や谷あいの海岸沿いで排水条件が極端に悪化するため、氾濫による大洪水の被害を受けやすくなると言われており、過去には様々な災害が発生しております。A3の資料1を御覧ください。白老管内の河川位置図を資料として付けさせていただきます。白老町内の河川の数になりますが、2級河川、北海道で管理している河川が8河川ございませう。普通河川として11河川、準用河川が45河川となっております。先ほども説明しましたが、オロフレのほうのカルルスから伊達市大滝区、こちらが白老町管内の河川の始まりの部分、雨の降りやすい、雨雲のできやすい降水帯のベルトとなっております、降水量にもよるのですが、山のほうで降った雨が3時間から4時間かけて麓へ流れてくる形となっております。大きく分けて最終的には白老川・ウヨロ川・敷生川に集まってくるような地形条件となっております。

画面を見ていただきたいのですが、白老町の鳥瞰図となっております。オロフレ、カルルス、大滝の山の尾根の高い部分で雨雲が発生しやすくなっており、雨が降りやすいのがカルルスとの尾根の境になっておりまして、カルルスに発生した雨雲が流れてくると敷生川の支流に流れてきます。ここも山の尾根になっていますが、超えてしまうとウヨロ川のほうです。この中で発生すると白老川に流れてくるような地形条件となる状況とございませう。同じくこの流れがあるのですが、社台のほうが比較的山がなく平地になっておりますので、社台川や別々川では雨雲が発生しても河川が著しく増水していない状況となっております。

先ほどのA4資料の2ページにお戻りいただきたいと思ひます。表2になりますが、白老町内の主な水害の歴史となっております。この中で、大災害となった昭和38年8月の大豪雨になります。ウヨロ川とかブウベツ川、こちらが氾濫している状況となっております。その下の昭和40年9月になりますが、こちらがブウベツ川とウヨロ川で大きな氾濫をしている記録があります。その下の昭和45年9月、白老川で大きな氾濫を起こした記録となっております。

次、3ページになります。昭和56年8月になりますが、こちらの大豪雨におきましては白老川が大きく氾濫したという記録となっております。その2つ下、昭和62年8月になりますが、集中豪雨となりましてウヨロ川とブウベツ川が大きく氾濫しております。萩野・北吉原地区、緑泉郷地区ではゴムボートによる住民の救出避難が発生したという記録も残っています。

4ページになります。平成26年9月の豪雨になりますが、こちらがブウベツ川で大きな氾濫をした記録となっております。この年の被害総額は8億2,130万円で、白老町内で発生した災害の記録としては過去最高額を更新したところとございませう。その後、大きな雨の記録は残っておりませんが、これ以外にも様々な災害もありましたが、こちらの資料は白老町史、白老町強靱化計画より抜粋したものを掲載させていただきましたので、細かな資料はそちらを御覧いた

だければと思います。4 ページの下のほうになります。近年、おおむね5年程度なのですが、著しく大きな水害は発生しておりませんが、河川の増水による宅地・道路の冠水や洗掘被害のほか、河川護岸の一部崩壊などが例年発生している状況となっております。

A3資料の資料2を御覧いただきたいと思います。平成29年度から令和4年度、5か年程度の水害発生箇所を落とし込んだ図面となっております。近年の大きな災害としては、平成29年9月に国道36号の竹浦橋の被災が発生しております。水害となる大雨の際、道路の路肩の洗掘といった部分が多く出てきますので図面に落とし込みはしていませんが、その次に多い水害として、資料に記載しておりますが、各地区で冠水が数多く発生しております。依然として石山の岩倉団地とかライラック団地、こちらの道路冠水が毎年数回は発生しておりますので、大排水路のポンプを稼働させて排水などを行っております。そちらの監視を強化する目的もあり、令和4年6月に白老町で監視カメラを設置しております。カメラの内容については後ほど資料を使って説明させていただきます。

A3資料の資料3-1を御覧ください。白老町内で発生した近年の水害発生写真となっております。近年ということで資料を集めていたのですが、この写真は全て今年のものとなっております。今年に入ってからこれほどの被害が出ている状況です。一番被害が大きかったのは、竹浦幌内区・旧幌内福祉館横の道路の洗掘と崩壊となっております。普段は全くトラフの部分に水が流れていなくて、排水は全て空からの状態となっております。1時半ころ発生しておりますが、この日も道路パトロールは順次行っていたのですが、その3~4時間前に現地を確認したときには異常はないと、パトロール班も再度パトロールする必要はないかと思ったのですが、3~4時間でこのような濁流が流れてくる災害が発生した状況になってございます。資料の左下、幌内川の流木などの支障物による水路の閉塞状況です。国道36号のケアハウス暖炉付近の幌内川の状況になっております。幌内川の増水の程度に応じて水量を調節するためのバイパス先に放流するような堰のようなものが側道についております。接続先河川のメツ川が増水したときに、水を流したままにしていると国道沿いにあります田淵水産辺りの宅地部分で氾濫して周辺地が冠水してしまいますので、このようなバイパス管を操作して水路を調整すると。黙って堰の部分を閉じたままにしておきますと、流木などが詰まって川の流れが悪くなって被害が発生してしまいますので、パトロール班が定期的に支障物を除去するなどの対策を行っているところでございます。資料の右下になります。敷生川の増水の写真となっております。つい先日、10月16日の大雨のときの河川の増水の写真となっております。敷生川の通常の水位は4.28メートル程度となっております。このときは氾濫の危険水位とされております7.2メートルまで、普段より3メートルほど河川の水位が上昇したところでございます。橋げたまであと1メートルとか、1.5メートルくらいになっていまして、そこまで増水してしまうと橋の通行止めとか、隣の禅照寺さんのほうにも氾濫する危険性もありましたので、白老町の防災のほうから避難所の開設とか、情報提供などをお知らせしたところでございます。

続きまして、資料3-2を御覧いただきたいと思います。こちらは、萩野・石山・白老・社台・森野地区の同じような水害の写真となっております。説明が抜けておりますので、説明させていただきます。右上の毛白老川の写真になります。左側の写真が洗掘を受けた写真で、右

側が災害復旧後の写真となっております。萩野・石山・白老・社台・森野地区については大きな被害はなかったのですが、左下の萩の里自然公園散策路で倒木が発生しております。風災害ではなくて大雨によってのり面が流れた水で斜面が洗掘を受け、それによって倒木が発生している状況になっておりまして、あまり目にはしないのですが竹浦、森野の山奥でこのような土砂が流れ出るような洗掘の被害がかなり出ておりまして、北海道のほうでそのような山の部分の補修作業等も実施していると伺っております。資料右下になりますヨコスト側の河道部分の閉塞状況となっております。左側の写真が、河道が閉塞している写真となっております。河川の堆積物とか水草の発生、海岸から砂が押し寄せたことによって河道が狭くなって流れに支障が発生した状況となっております。こちらの河川、このように河川の流れが悪くなって水位が上昇してしまいますと、岩崎のスタンド、そのような裏地の堤内地にも冠水が発生したり、ヨコスト団地で排水の流れが悪くなったり障害が発生しております。実際に8月の災害は重機を使って河道の掘削をして流れを確保してございます。このような対策を行いましたので、先日10月の雨でも被害は発生してございません。

今説明させていただいた竹浦幌内区の旧幌内福祉館の災害洗掘の映像がございまして御覧ください。撮影したときは災害が発生した直後で、この後さらに洗掘が発生してトラフも下に落ちてしまうような災害につながってしまいました。上流に砂防ダムが4基ほどありまして、その沢水をここで受けるような形になってございます。昭和45年頃に、昭和30年代に発生した災害対策として北海道で砂防ダムは設置されていたのですが、私が役場に入庁して30年以上になります。ここでこのような被害を目にしたのは今回が初めてでございます。胆振総合振興局の方と山の奥のほうまで、全ての砂防ダムの点検を行ったのですが、土砂崩れが起きたということではなくて、短期間に降った雨が線上降水帯のような強い雨となって一気に流れてきて災害になってしまったのではないかと思います。これは上から町道側に向かっての映像になります。その奥が町道になっておりましてそちらまで排水が全て流れて、その先の排水路で被害が発生し、8月の復旧費で全てトラフの清掃等もやらせていただいたところでございます。

○委員長（広地紀彰君） 及川委員。

○委員（及川 保君） この付近に河川はあるのですか。

○委員長（広地紀彰君） 瀬賀建設課長。

○建設課長（瀬賀重史君） クッタリウス川といって虎杖浜と竹浦の境目の川があります。ここを流れていった排水が、竹っこ通りを通過して道路排水から最終的にクッタリウス川へ流れる仕組みとなっております。そこに流れ着く前のトラフの部分などで今回被害が発生しております。

続きまして、A4資料の5ページをお開きいただきたいと思います。4、河川などの水害対策になります。この辺からが実際に水害対策の説明となっております。白老町の河川改修事業は、昭和の終戦までは北海道の大河川が重点とされておりまして改修事業はほとんど行われておりませんでした。数年ごとに襲来した台風や低気圧により大被害を受けまして、交通途絶もしばしば発生しておりました。相次ぐ河川災害による橋梁（木橋）の災害復旧における維持補修が精一杯の現状であったと、白老町史に記録されております。町内の治水事業が本格的に実施されたのは、昭和39年に改正された河川法の公布からとなっておりまして、北海道が管理する

町内の2級河川における治水対策事業として、別々川、白老川、敷生川、ポンアヨロ川、ブウベツ川、フシコベツ川（萩野）等で改修事業が行われております。先ほどの災害の歴史の部分でも触れましたが、平成26年9月の大豪雨におきまして、白老川、ブウベツ川、ウヨロ川での氾濫被害や河岸浸食が発生したため、北海道において白老川水系河川整備計画（平成29年3月）が新たに計画されまして、同計画に基づくプロジェクトにより河道掘削や護岸整備などが現在進められている状況です。このほかの準用河川や普通河川については、町が管理し改修事業を行うこととなっておりますが、準用河川のウトカンベツ川（バンノサワ川を含む）につきましては、上流地に陸上自衛隊の北海道補給所白老弾薬支処が設置されていることから、河川管理者である町が防衛施設所管事業による白老駐屯地周辺災害防止対策事業として、ウトカンベツ川改修事業を全額国の負担により実施しております。これまでに改修を実施した河川としましては、準用河川としてはウトカンベツ川、メップ川、幌内川、クッターウス川、普通河川の学田川となっております。バンノサワ川につきましては、現在も防衛局の事業として引き続き事業を進めているところです。そのほか町内では、過去の河川氾濫など災害が数多く発生してきたことから、災害を未然に防ぐため、河川・排水路などの治水事業を実施しております。

資料の6ページをご覧くださいと思います。北海道で行っている白老川水系流域治水プロジェクトになっております。そこから抜粋したものになりますが、先ほどの水害の歴史でも話しましたが、昭和56年、62年、白老川のほうは過去の氾濫によって一度整備はしたのですが、平成26年に新たな河川の氾濫が発生しましたので、北海道のほうでプロジェクトに基づいて掘削ですとか護岸整備が進められている状況となっております。白老川水系の整備なのですが、現在白老川河口周辺の整備が終わっております。先ほどの資料3-2の下の左から2番目が、今年10月に白老川が増水した写真になっておりますが、このような河道の掘削とか護岸整備がされていなければ敷生川並みに水位が上昇して危険性がさらに増していたのではないかと推測されると思います。今まで白老川だけが整備が先行していたのですが、今年はウヨロ川の一部でも河道の掘削を実施する予定と北海道のほうから伺っておりますので、ウヨロ川も毎回水位が上昇しておりますので、このような整備が進むことによって氾濫の危険性等も少なくなっていくのかと考えています。

資料7ページになります。こちらは白老川水系流域治水プロジェクトのロードマップになってございます。具体的な整備事業の記載はないのですが、プロジェクトの中ではおおむね令和7年度までに白老の高速インターチェンジ辺りまで、白老川の河道の掘削、護岸整備を進める計画をしていると北海道より伺っています。

続きましてA3の資料4をお開き願います。白老町内で行っております近年の水害対策工事になってございます。先ほどお話しました北海道の白老川水系の整備計画場所がモニターを見ていただくと、この辺りが北海道水系のプログラムに基づいて整備が行われている状況です。上のほうに写真がついておりまして、大まかな概要としましては、ピンクの部分の河道に土砂等が堆積して閉塞している状況となっております。水は普段この水色の部分しか流れないのですが、ピンクの部分の河道掘削を行って氾濫の危険を防止したということで、河道掘削前が右下の写真になってきます。この辺りに木が生えているのですが、実際に伐採をしまして護岸もこ

のようにきれいになっています。こちらの護岸、草木が生えておりまして、木々を伐採とか伐根をしまして、現在このようなきれいな状態になっていると思います。このような整備が高速のインターチェンジ付近まで、令和7年度まで継続して進める予定と伺っております。

こちらはバンノサワ川の河川砂防工事となっております。そのほか萩野十二間線の排水路の改修工事を行っております。後ほど午後から現地を見ていただきたいと思います。平成28年度から土砂・水草の除去、平成29年度から柵渠の更新を行っております。柵渠の更新は先日の議会で答弁させていただきましたが、総延長が約3.9キロメートルございまして、今年度現在までで約1.4キロメートル柵渠の更新を終わっております。全体の約36%が終了しておりますが、年々整備できる距離が150メートルから160メートル程度となっておりますので、この先まだまだ10年くらいはかかると考えているところでございます。柵渠の更新の具体的な内容ですが、こちらに簡単な図面がついております。設置当初はこのようなきれいな柵渠が構成されておりました。鋼板を使った柵渠になってございました。長年の使用で鋼板の部分がさびなどの腐食で穴が空いてしまうと、川の流れの勢いで土砂が流出してこのような穴ができてしまう状況となっております。土砂が堆積すると当然、河川の流せる容量も減ってまいりますのでそれが上昇につながっていくのかと思います。今、同じような状況が萩野の十二間線のほか、竹浦のJRの北側の竹浦2番通りで一部柵渠の更新を実施しております。あと今年度から石山のライラック団地でも排水路の改修工事に着手する予定となっております。こちら令和4年度予算として3,000万円ほどいただいたのですが、排水路の断面積が多くて更新していくためのPC管もかなり高額なものとなっております。今年特に資材の高騰がかなり出ておりました。100メートルくらい腐食の著しい場所をやろうかと思ったのですが、そのような状況もあり50メートルから60メートルくらいしかできないのではないかと考えております。延長が大体1.5キロメートルくらいございまして、このペースでいくと15年から20年くらいかかってしまう予定なので、現課としても早急に改修できるように予算を付けていただくよう考えているところでございます。8月の災害でヨコスト川の河道掘削をしたのですが、予防措置としてクッタリウス川の河道の掘削、令和4年度ですが、幌内側の河道の掘削、一部土砂がたまりましたので河道の掘削も実施しております。河道掘削後極端な水位の上昇もなく、適切な河川の流化が図られているところではないかと捉えているところでございます。

続きまして、A4の資料に戻っていただきまして、8ページをお開きください。5、災害パトロールの実施についてでございます。白老町内では水害の発生に備えて河川や排水路等の改修事業を進めており、道路・河川・排水路等に異常がないか、日常パトロールも実施しているところでございます。しかし、台風や発達した低気圧の接近においては、予測をはるかに超える大雨となることや、近年多発しているゲリラ豪雨や線状降水帯などの発生において局地的な大雨が発生することから、建設課職員による災害パトロールを実施し被害拡大の未然防止に努めているところでございます。災害パトロールの実施については下のほうに表を付けていますが、こちらの体制概要で行っております。各パトロール班との相互連絡体制としては、現在スマートフォンのLINEアプリによるグループトークを活用して、現地の状況を文言によるコメントのほかに写真や動画を撮影して投稿して情報共有を図りながら進めているところでござ

います。警報が発令されると建設課だけではなくて、総務課の防災・交通室を加えた情報共有で実施しております。総務課ともLINEを活用してグループトークの中で災害の情報共有を随時図っているところでございます。今、インターネットの気象情報雨雲レーダーによる降雨強度の影響も都度確認しながら、パトロールの実施にあたっているところでございます。

A3資料の資料5、時系列の災害記録をつけてございます。こちら令和4年8月16日の大雨の気象状況とパトロールの記録になってございます。前日の8月15日から雨が強くなっておりまして、8月16日、日付が変わって夜中の午前1時くらいから全域のパトロールを実施しております。雨雲レーダー等によって河川の増水が心配されておりましたので、予防対策として2時くらいから河川の樋門等の開閉操作作業等も実施しております。実際に午前4時ころなのですが、雨が強まって河川がかなり増水してきましたので、先手を打って樋門などの対策をとっておいてよかったと改めて感じるところでございます。この週の傾向なのですが、1週間程度雨が続いて天気が悪く、土壌も湿潤状態となっていたところに大雨が重なってしまいました。先ほどの幌内地区の土砂流出など、東萩野地区の自動車学校の横になりますが、こちらのほうでも宅地内での冠水が発生しておりまして、特に東萩野のほうは8月16日からポンプを稼働させたのですが、17、18、19、20日と5日間、丸4日程度、ポンプでの排水をし、道路、宅内の排水作業を続けていた状況となっております。

続きまして、A4資料に戻っていただきたいと思えます。9ページになります。先ほどのLINEグループトークの画面が左側になっております。このようなグループトークを活用して、現在パトロールの状況の写真を投稿したり、ときには動画を投稿したりして、パトロール班との情報共有を図っています。このような写真を送ることによって、今はこのような川の状況を見ていますが、この先の部分はどうかとか、指示も細かくできるようになったので、役立っている状況だと思います。住民から、家の周りで冠水しているので見に来てくれないかという場合も、このようなLINEで住宅地図の位置の写真を撮ってそれを送ることで、近くにいるパトロール班が現場に急行しやすいといったメリットも出ているところでございます。右側は皆さんご存じかと思いますが、雨雲レーダーのスマートフォン画像となっております。これは北海道ではなくてほかの写真も転用させていただきました。このような雨雲の発生予測、移動の方向、そのような部分で雨雲が河川のほうに近づいてくると2時間、3時間後に増水が発生してしまいますので、このような雨雲の動きの状況を見ながらパトロールを実施して、必要に応じて河川の樋門を閉めるとか、そのような作業も行っているところでございます。

続きまして、10ページになります。6、河川観測カメラの活用による水害発生への対応についてです。北海道が管理する一部の河川では、観測カメラや水位計が設置されておまして、インターネットの閲覧が随時可能となっております。災害パトロールの際は、このような河川の水位情報を基に、最終的に現地の目視確認を実施して河川近隣地への出水被害を防ぐために、樋門・樋管の開閉操作予測と共に、必要に応じ作業実施に当たっております。また、石山地区ではこれまで冠水が頻繁に発生しておりましたので、現地確認の作業が大きな負担となっていたことから、白老町の令和4年度事業としまして水位監視を行うための観測カメラ・水位計を設置し、現在は迅速な観測対応が可能となり、パトロール班の負担軽減につながっております。



資料6を御覧いただきたいと思います。白老町内に設置されている河川観測カメラの設置場所になります。東のほうから別々川、白老川、白老川は白萩大橋と御料地橋周辺の2か所にカメラがついてございます。ブウベツ川、ウヨロ川、萩野地区のフシコベツ川、敷生川にカメラと水位計がついています。実際に北海道の川の防災情報というページから誰でも閲覧することができます。資料6の右上のほうに掲載サイト、国土交通省川の防災情報のインターネットのアドレスも載っておりますので御確認いただければと思います。通常時の水位の状況も見られるようになっております。この間警報が住民に周知されたのですが、それは氾濫危険水位という紫のラインに到達するか、超えたあたりで避難情報が出てくる、この赤のラインを超えた時点で災害本部が避難所を出そうかどうかという判断に入ってくるのですが、この紫を超えてくると河川の周辺の方は避難を始めていただかなければならない状況になると考えております。北海道で設置されたカメラの情報は、道内、全国各地、いろいろ見られますので、時間のあるときに見ていただければと思います。

次に、白老町で設置したカメラです。これは現在10月19日の11時2分に撮影されたデータ、石山の団地の排水路の流末でウヨロ川に接続する部分のカメラ映像です。午後から実際に設置場所を現地視察で確認していただきたいと考えております。先日、10月10日ですが、大雨で増水したときの画像も過去1年間くらい写真データとして残しておくことができます。こちらのシステムのいいところと悪いところがございます、水位の情報が常にリアルタイムで確認できるのですが、赤い線、1、2、3とありますが、この線をまたいでいくと職員にメールで通知されるようになっております。ですので、現地確認に行かなくてもメールが届くと確認ができる状況になっております。これは24時間、365日、ずっとメールの受信体制になっております。悪いところが、下がる時にもメールが届いてしまいまして、上がる時には一気に上がるのですが、下がる時には翌日や翌々日に届くこともあるので、山のほうで降ってまた増えたのではないかと判断がつかないという部分もございます。

○委員長（広地紀彰君） 及川委員。

○委員（及川 保君） 3本ありますが、今回の敷生川での避難勧告というのはどのようなものだったのですか。

○委員長（広地紀彰君） 瀬賀建設課長。

○建設課長（瀬賀重史君） これは、大排水路の部分だけになっております。敷生川だと現在水位が4.32メートルありまして、氾濫危険水位が7.2メートルとなっております。10月10日当時は紫色の辺りまで水位が一気に上がっております。さらにそこから1メートル、1.5メートル越えてしまうと橋げたに水がぶつかったり、禅照寺さんのほうへ氾濫したりしてしまう危険性も心配されたところでした。

A3資料7を御覧ください。こちら白老町内の河川の樋門・樋管等の設置場所となっております。通常時の雨の降らないときは河川のある堤外地は水位が低いので、住宅部分の排水は適切に流れるのですが、住宅地に雨が降ると排水路の水位が上昇して堤外地の河川のほうへ流れていける状況になります。ただこれは、山のほうで雨が降ってしまうと河川の水位が上昇して、このような樋門を閉めないで河川の水が逆流してしまう状況になりますので、先ほどの雨の予

測、河川の水位の状況を見ながら樋門を閉める作業を実際に実施しているところでございます。樋門を閉めると河川からの逆流がなくなるのですが、やはり宅地部分でも雨が降りますので、この排水をどのようにするかというと、流すことはできないので排水ポンプを使ってそれを川のほうへ流すといった作業が、雨の水位の状況によっては生じているところです。実際に大きく排水をかけるところは午後から見に行くのですが、石山の排水路です。こちらの排水ポンプを使う回数は年に数回発生している状況となっております。当然樋門を閉めた後、水位が下がったら、職員が樋門を開けに行くといった事後作業もありまして、かなり負担が生じていると感じているところです。

資料の11ページをお開きください。最後になりますが、7、住民との情報共有になります。災害パトロールにつきましては、地域の予報や降雨量と併せ、過去の災害発生場所や町民から相談を受けた場所などを重点的に実施しております。また、道路冠水や路肩洗掘、風倒木被害の発生について町民から連絡をいただいた場合には、パトロール班が現地に向かうとともに、必要に応じて連絡者の町民と直接お話をしたり、現地を見たり、そのような対応をするよう努めているところです。そのほか、過去の大雨などの影響により、これから降る雨などによる今後の災害が心配などという声が寄せられますが、その際には現地の状況を確認のうえ、危険性が高く早急に対応が必要なものは即座に取り組むよう進めておりまして、実際の降雨時の状況確認が必要となるような場合には、その都度、職員と町民との現地確認や情報共有を行いながら、可能な限り町民に安心していただけるよう努めております。

足早で申し訳ございませんが、以上で資料の説明を終わらせていただきます。

**○委員長（広地紀彰君）** 委員各位もお気づきのことと思いますが、今回の資料については、ほとんどこの所管事務調査のために作成していただいたものでありまして、具体的なものや10月の直近のことまで捉えていただいたことに関して、本当に敬意を表したいと考えております。

それでは、各委員からの質疑を受けたいと思います。

及川委員。

**○委員（及川 保君）** 本当に細かな資料をつくっていただき参考になりました。今までこのような状況の説明はなかなかなくて、実際の大雨のときのパトロールなど、委員長からもお話がありましたが、職員の皆さんは大変な思いでいつ起きるか分からない状況の中、緊張感を持って頑張っておられることに私も敬意を表したいと思います。

樋門の図面ですが、石山通のいつも冠水が起きているのは、そのように門を閉めてしまうと上がってきてしまうというか、いろいろあるようですが、その状況を説明してほしいのです。

**○委員長（広地紀彰君）** 瀬賀建設課長。

**○建設課長（瀬賀重史君）** 今のご質問になりますが、石山の排水路の流末先がウヨロ川になってございまして、ウヨロ川の水位が上昇してしまうと排水路からの流れが排水できなくて、河川からの逆流を防ぐために樋門を閉めてポンプで排水するようにしています。石山の団地自体もかなり雨の降りやすい地域で、この団地から出る排水量はかなり多い状況となっております。あらかじめ樋門を先に閉めてしまうと団地内での堤内地の排水ができなくなって水位がどんどん上昇して、道路冠水も発生する状況になります。

○委員長（広地紀彰君） 及川委員。

○委員（及川 保君） 冠水するメカニズムは、どうにもならない状況なのか。常設しているポンプは3本くらいあるようだが、これで処理仕切れるものなのか。今後もそのような状況で対策を進めていくのか説明をお願いします。

○委員長（広地紀彰君） 瀬賀建設課長。

○建設課長（瀬賀重史君） ただいまのご質問になりますが、この河川の放流ができない原因はウヨロ川自体の河道の閉塞となっています。今年から北海道の事業として、先ほども説明しましたが、こちらの河道にかなり土砂が埋まっています、河川の断面積がかなり小さい状況となっています。それに伴い水位が上昇しやすい状況となっています。今年からウヨロ川の河道の掘削を行うことによって、現在よりも水位が下がるのではないかと考えております。水位が下がれば堤内地への河川の逆流がかなり低減されますので、ポンプを使うことなく、樋門も閉めることなく、そのまま流下できるのではないかと現課としては考えているところです。実際、ウヨロ川の河道の掘削を行って、その状況よっての判断になりますが、それでもどうしても解消できないとなると今までどおりポンプでの対応になりますし、これが実現できるかどうかは分かりませんが、例えば排水路、別な場所にバイパス管をつくって水位を上昇させないようにするなどの対策も必要になってくるのかというところですが、今年から実施するウヨロ川河道の掘削を期待して待っていきたいと考えています。

○委員長（広地紀彰君） 及川委員。

○委員（及川 保君） 状況は分かりました。今ポンプが3台くらいついているのですが、機械だからいざというときにうまく対応できない状況も考えられるので、住民の不安を取り除くためにも、日頃の点検も含めて進めてほしいと思います。

○委員長（広地紀彰君） ご意見ということで受けたいと思います。

ほかの委員の質疑をお受けします。

長谷川委員。

○委員（長谷川かおり君） 私は、白老にたくさん川があって、このように町民の日常生活に影響があるのだということが、今日つくづくわかりました。

最後の11ページの7、住民との情報共有のところ、町民からの連絡の方法ですが、先ほど夜中から水位が上がってというお話もありまして、夜間・深夜・日曜・祝日などそのような時の町民からの、何かあったときの連絡の手法は現在どのようになっているのかお聞きします。

○委員長（広地紀彰君） 瀬賀建設課長。

○建設課長（瀬賀重史君） ご質問にありました連絡方法ですが、具体的には町民からの電話での連絡ということになっています。パトロール班が回っているときに呼び止められて対応することもございますが、基本的には電話での連絡となっております。

○委員長（広地紀彰君） 長谷川委員。

○委員（長谷川かおり君） 日曜・祝日なども役場に電話をしてという理解でよろしいですか。

○委員長（広地紀彰君） 瀬賀建設課長。

○建設課長（瀬賀重史君） 建設課の職員が休みの際も当番携帯を所持しております。町民か

らの連絡は、まず役場に入るのですが、役場の警備から当番携帯へ連絡をいただいて、その当番携帯を持っている職員が対応している状況になります。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員はいかがでしょう。

現地も午後から見て来ます。

森副委員長。

○副委員長（森 哲也君） 本日は説明していただきありがとうございました。

詳細に説明資料をつくっていただきまして、これほど冠水している地域があるのを把握していなかったのが、大変ありがたく資料を拝見させていただきました。

その中でも感銘を受けましたのが、資料5に書かれていた、大雨対応パトロール開始時間が8月16日の午前1時で、大雨警報が発令される前にもうパトロールが開始されているところ。本当に町民の安全を守るために迅速に行動されているのだと資料を拝見して把握できました。

1点確認したかったのは、カメラが導入されて、先ほど実際の映像を見せていただきまして、鮮明ですごく分かりやすい映像だと思って拝見させていただきましたが、災害時に通信が途絶えてしまう、カメラの映像が送られてこないということが災害の状況によっては起こりえるものなのか。カメラの通信について伺います。

○委員長（広地紀彰君） 瀬賀建設課長。

○建設課長（瀬賀重史君） 通信の部分ですが、北海道で観測しているカメラは、実際に欠測ということで一時的に通信が止まってしまう映像が出ないこともありますが、今までの状況では30分程度で復旧すると感じています。インターネットの回線を使って行っておりますので、利用する端末の電池の持ち具合、通信事業者のほうで通信障害が出てしまうとこのような情報が確認できなくなってしまうので、そのようになると無線でのやり取りとなります。

今回石山地区に白老町が設置したカメラですが、このような機械単体でソーラーパネルによって電源を確保しております。機械が故障しない限り観測自体は続けられる状況です。例えば通信が途絶えてしまっても通信が再開された時点でサーバー局にデータが送られて、そこからデータを引っ張って見えていますので、通信障害が出てしまうとリアルタイムではなくなってしまうかもしれませんが、後から確認することもできます。実際に観測ができなくなった場合は、職員がその場所に行って河川の水位計を目視で監視しています。今のところ観測できなくなったことはないのですが、実際にできない場合は目視での対応になってしまうということです。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員の皆様はいかがでしょう。

西田委員。

○委員（西田祐子君） このような災害のときに、町のホームページを見ても何も書かれていなかったのですが、最近は大分デジタル化も進んできて、自分の住んでいる地域が災害になりそうなのか、なりそうではないのかということ町ホームページで見ることができないかと思っていましたが、説明していただいて、そのようなホームページを見ればいいのかというのとは分かりましたが、多くの町民はそのような情報がないですから、できればホームページにリンクするのか、よくわからないのですが、どうなのでしょう。いつも私、災害のようだけれどどこが氾濫しているのか、現地に住んでいる人でなければ分かりません。その辺に住んで

いる身内など、家族が心配になったときに確認する作業が本人に直接電話するしかできないのですが、本人が高齢者の場合どうしようもないのです。そのようなことはどうなのか、その辺だけ教えていただきたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 瀬賀建設課長。

○建設課長（瀬賀重史君） ホームページ等での情報の提供ですが、今回10月10日に降った雨では避難所開設をホームページに掲載するよう、今回から対応したところでございます。実際に雨が降った量などにもよるのですが、警報が出ると総務課の防災・交通室が立ち上がって、災害対策の部分で対応させていただくと思うのです。建設課のほうは警報が出ていなくても、一時的な強い雨でも防災のほうを待たずにパトロールに出ています。警報が出ていなくても著しく被害が出そうな場合は、今後防災と連携を取りながらホームページ等で周知していくことを考えていかなければならないと捉えているところでございます。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員の皆様はいかがでしょう。

久保委員。

○委員（久保一美君） 資料7の中で、白老川水系、ブウベツ川、ウヨロ川と増水したときに、排水しきれずにオーバーフローしているのが過去何度もあるのですが、そのような部分に関して根本的な解決策というのは実施できているのか。私の素人考えなのですが、例えばブウベツ川、ウヨロ川から真っすぐ海岸に抜けるものを設置できないのか。ある程度水位が高くなったときに自然に海に抜けるようなものを設置できないのか伺います。

○委員長（広地紀彰君） 瀬賀建設課長。

○建設課長（瀬賀重史君） ただいまご指摘をいただきました、河川が増水したときに真っすぐ川を切って海に放流させればいいのではないかとということで、過去には敷生川でケイホクさんの脇のほうで抜いてございます。現在、8月の大雨のときもメップ川で水位が上昇しましたので、切ろうかとなったのですが、今の時期サケの遡上が絡んでおりまして、簡単に川を切ることができないということもあり、メップ川から流れてくる敷生川との間にサケのウライが設置されておりますので、そこを切ってしまうとこちらに流れる川の水にも影響しますので、漁業協同組合との協議が必要であり、ブウベツ川、ウヨロ川にもウライが設置されておりまして、今の時期は簡単には切ることはできないというところでございます。過去には河川が増水して樋門のほうからバックしたり、低い堤防の部分から堤内地にオーバーフローしたりしていたのですが、現在白老川の流末、河道の部分は先ほどの北海道のプロジェクトの中で、ある程度川幅、川底までの高さ、その断面が確保されておりますので、現在はそこまでオーバーフローすることはないという状況でございます。過去に美園団地の道路にも川の水が冠水しましたが、適切な河川管理、維持管理をしていれば、そのようなことは発生しないと考えております。

○委員長（広地紀彰君） ほかに質疑のある方はいらっしゃいますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） それでは、質疑を終了いたします。

建設課の皆様、大変ありがとうございました。

暫時休憩いたします。

休憩 午前11時43分

---

現地調査

- (1) ウヨロ川大排水路の監視カメラ
  - (2) 萩野十二間線排水路改修事業
  - (3) 竹浦幌内地区（旧幌内福祉館）の道路・排水路の災害復旧箇所
- 

再開 午後 2時35分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じて委員会を再開いたします。

現地視察御苦労さまでした。

それでは、前段詳細な資料を基に担当課より説明をいただいた中で、私のほうで意見の取りまとめとして整理させていただきました。まず1つ目は、日頃の点検について。防災対策に対する設備や河川パトロール等の日常の点検を進めてほしいという点。それと、町民に対してより充実した情報提供の方法。ホームページ等に掲載しているのかどうかといった部分のご意見なのかと感じておりました。あとは、防災・交通室等との連携を進めるべきというご意見もありました。また、これは視察中にはありませんでしたが、今だと萩野十二間線は150～160メートルくらいの進め方で、聞くと柵渠の単価が鉄板と比べて5～6倍するというので、思うように進まないということで、事業費の確保に努められたいといったご意見と捉えています。

私が今押さえている意見は以上のとおりでしたが、それに関して、ないしはそれ以外の観点でも結構です。ご意見をお持ちの方がいらっしゃいましたらお伺いしたいと思います。

及川委員。

○委員（及川 保君） 午前中の説明、昼からの現地視察ですが、人海戦術でやられていたのでしょうか、例えばウヨロ川に監視カメラを付けて進めているという、ここも解決策がなかなか難しい状況ではあるのだけれども、住民の安全確保を考えたときには、ここは重要なところだと思います。全部に言えることなのだけれど、人海戦術ばかりではなくて監視カメラの設置基準、これをやみくもにつけたら解決するかというとなかなか難しい部分があると思うのだけれど、人間がやってきた状況を考えると、やはり今の新しいシステムの導入も視野に入れて進めてほしいと。防災はもちろん人がやらなければならないところは多々あるのだけれどこれからの災害を考えたときに、少しでも早く状況を把握するためには、ましてや集中的に降ると説明でもありましたが、局所的な大雨になってしまうという、これに対応するのは難しいのだけれど、そこは人海戦術で職員の皆さんも大変なのだけれど、そのようなことをしっかり踏まえてやるためには、補助的なカメラや機器の活用をぜひ進めていただきたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 監視カメラ等機器活用を進め、災害対応の迅速化や効率化に努められたいと、そのような趣旨でよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） そのようなことを意見として盛り込むことで押さえます。

ほかの委員から何かご意見等ございませんか。

森副委員長。

○副委員長（森 哲也君） 現地を実際に見て感じたことは、今日は晴れていたのですが、ウヨロ川の現地で思ったのが、大雨の中あの場所に行くというのは本当に危険な状況なのだと思います。その中で、先ほど及川委員からもあったとおりパトロールする方の負担軽減のためには監視カメラの設置等、あとはカメラがないと目視でという話もされていたのですが、樋門がかなり老朽化しているようなので、あのようなところの老朽対策も気をつけていかなければ、パトロールに行った方の身が危ないのではないかと視察に行ってみました。

○委員長（広地紀彰君） 先ほどの機器活用で、持続化や効率化を進めるという観点のみならず、対応人員の方の安全性の確保という観点からも機器の設置や既存施設の更新をしっかりと進めていくべきだというご意見でよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） そのように盛り込んでいきたいと思います。

ほかに何かご意見ございますか。

西田委員。

○委員（西田祐子君） 先ほども視察中に、予算が足りないので、ある程度の年数をかけながらやっていかなければいけないという話がありましたが、樋門の古くなった問題なども、たしか10年ほど前に石山で冠水したときも樋門がさびて開けられなかったのです。動かなくて開けるのに随分時間がかかったこともあったので、このような災害対策に向けるものはある程度予算をきちんと行政でも考えて、必要なところにはきちんと付けるという基本的な考え方をしてほしいということを入れてほしいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 重点化を図りながら事業費の確保に努められたいという趣旨でよろしいですか。現地視察の中でも多少議論もあったように記憶しています。ほかにもたくさんやらなければいけないことがあるのもこれは事実です。ただ、やはり重点化を図っていくと、ここはしっかりやっていかなければだめな場所だというような、そのような進め方であれば、ある程度進められるのではないかと思いますので、重点化を図りながら事業費の確保に努めていくべきという趣旨のご意見でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） ほかに何かご意見等ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） それでは、項目の箇条書きのまとめになりましたが、これを正副委員長で文章化させていただいた後、委員各位に見ていただく流れでまとめていきたいと思いますがよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） それでは、そのようにまとめて12月会議にて報告いたします。

では、続きまして、2、委員会道外視察について。事務局よりお願いします。

八木橋主査。

○主査（八木橋直樹君） 先だってお配りしております雲南市、邑南町、浜田市、それぞれの

概要資料について、順番に簡単に説明していききたいと思います。

まず、雲南市ですが、コミュニティナースカンパニーというところが視察を受入れてくださることになりました。本日お配りした資料ではなく「幸雲南です。雲南です。」と市長が挨拶している資料ですが、雲南市の取組として、幸雲南塾という地域の未来を切り開いていく人材を育成しますという事業なのですが、この1期生に当たる矢田明子さんという方がコミュニティナースカンパニーを立ち上げて活動しているということで、最初の行政とのつながりはここからスタートしているということで資料を配付させていただきました。この観点としては、白老町にもコミュニティナースとして活躍している方がいる中で、今回島根県のコミュニティナースカンパニーにどのような観点での説明を求めるかという問い合わせがされているところですので、これについては須貝さんというコミュニティナースとして白老町で活躍されている方の活動実態などを踏まえて、遠くないうちに皆さんに共有させていただきたいと思っております。

本日配付したコミナスLIFEという資料では、須貝夢乃さんという方が虎杖浜のアヨロ温泉などと連携してコミュニティナースとして活動していますと紹介されています。そのほかに雲南市はどのようなまちなのかという概要、視察として市に行くわけではないので、どのようなまちに行くのかと参考に御覧いただければと思っております。今回行く3市町は、平成の大合併でそれぞれ合併して新たな自治体としてスタートしているまちとなります。人口3万6,000人弱、高齢化率も40.2%、白老町よりは低いですが高水準にある、これが雲南市です。

邑南町については、本日配付しているのは、平成28年版の町政要覧です。視察する項目として、日本一の子育て村構想とA級グルメ構想、この2本立てですが、こちらも事業の概要としては本日または先週配付したものが概要資料となりますので、質問項目等はこちらをお読みいただいた上で、どのようなことを聞くかを考えていただければと思っております。人口1万人前後のまちだと思うので、過疎は進んでいたところなのですが、2011年にスタートした日本一の子育て村構想によって、2年経過した2013年には人口の減少がストップして増加に転じる効果を発揮したということです。ゼロ歳から中学校卒業までの期間、医療費が無料といった取組をされています。町長公用車をはじめ、公用車全てに「日本一の子育て村」というPRステッカーを貼ってアピールしているまちだということです。第2子以降の保育料全額無料化ですとか、位置的にも広島市の中心部まで車で1時間余りの場所で、仕事は都市部で子育ては邑南町という町のような感じです。白老町も食についてはたくさんあるのですが、邑南町も200頭限定の石見和牛、石見ポークなど特産品がたくさんあるので、もともとはネットサイトや東京中心にイベントの開催などでPRに努めていたようなのですが、質の評価はあったのですがなかなか量産ができないという弱点があったので、発想の転換を図って食を切り口とした農林商工等連携ビジョンを策定し、地域振興でいこうと発想の転換をしたということです。B級グルメ、ご当地グルメという、全国各地で見られるところなのですが、邑南町では食を今後の地域活性化に向けた重点テーマと位置づけて、生産・加工・調理・交流各産業分野のさらなる革新と、それらの産業群を有機的につなぐストーリーの創出に取り組むこととされました。それで、邑南町で生産される良質な農林水産物を素材とする、ここでしか味わえない職や体験をA級グルメと称して、「食」関連産業の振興と雇用機会の拡大、観光・交流人口の拡大と定住人口の増加、農林水産



物の付加価値の向上と販路拡大、町民所得の向上といった、この4つを目指してA級グルメのまちの実現を図ることとされたと資料には書かれております。

町の観光協会では、地産地消のイタリアンレストランと加工場を併設した、素材工房 a j i k u r a 〈味蔵〉をオープンしているということで、有名なところらしいです。観光協会とはなっていますが、スーパー公務員と呼ばれる方がいて、退職されてしまったらしいのですが、そのような方が携わっていたと聞いています。これらが邑南町の概要です。子育てとA級グルメ、それぞれ配付した内容から情報は拾い出せると思っております。

最後に浜田市です。今日配付したのは市勢要覧とか市の概要というものになりますので、以前配付した浜田市における取組の紹介という資料で全てまとめられていると思っております。シングルペアレント介護人材育成事業ということで、この事業を行った背景としては全国どこも同じ課題だと思うのですが、浜田市では介護人材が不足しています。全国的にはひとり親家庭が社会問題になっています。地方は子育てしやすい環境が求められているということがあって、そこを一手に解決するためにもシングルペアレントに介護の人材として育ててもらい、地元の介護事業所で働いてもらうという、解決策としてこのような事業が始められたのだと思われまます。支援内容としては、給与の保障、養育支援金を1世帯につき月額3万円、家賃助成金、なかなかすごいと思ったのが自動車の提供で、中古自動車を無償提供しています。なかなか手厚いサービスだと思うのです。引っ越しの支度金、研修終了時に事業所から100万円支給とか、かなり手厚い事業を進められていたということです。この事業は令和2年度をもって終了されたということです。事業の実績やうまくいった点、うまくいかなかった課題点などをお聞きできればいいかと捉えております。

以上、簡単でございますが説明させていただきました。

質問事項ですが、来週半ばにはそれぞれ先方へ返そうと考えておりますので、各自どのような形式でも構いませんので、できれば24日、来週月曜日辺りまでに事務局まで提出いただいて、重複質問などもあるかもしれませんので、正副委員長と事務局でまとめを行ったうえで、先方に提出させていただきたいと思っております。もちろん、視察に行つて説明を聞いた中で新たな質問なども当然あると思っておりますので、気にせず質問していただければいいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 浜田市は通年議会を導入しています。

暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時56分

---

再開 午後 3時13分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

視察内容の説明と行程を調整させていただきました。以上のように進めてよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） それでは、そのように進めさせていただきます。

その他、何か議題をお持ちの方はいらっしゃいますか。

西田委員。

○委員（西田祐子君） コミュニティナースとは具体的にどのようなことをやられているのか、私たちは研修しないで行っても失礼にならないのでしょうか。

○委員長（広地紀彰君） 八木橋主査。

○主査（八木橋直樹君） 貳又委員にご協力いただいているところは、個別につながりがあるということなので、普段活動している内容を教えていただいて、それを皆さんに共有していただくというイメージでございました。事前に直接お話を聞く機会となると、普段札幌にいらっしゃる方なので。

○委員長（広地紀彰君） 貳又委員。

○委員（貳又聖規君） 須貝夢乃さんは、札幌の病院でお勤めされている方で、実家は萩野です。本業の傍らお時間があるときに白老で活動しているということです。コミュニティナースとは何かというのは、今日配付された資料のとおりです。ご本人とお話する中では、ご本人が抱えている課題のようなもの、白老でコミュニティナースの展開をするのであれば、どのような環境が望まれるかを聞くくらいなのかと思います。コミュニティナースも全国各地での展開があると思うのですが、その地域によって特性は違うと思うのです。白老は健康相談を、アヨロ温泉に来ているだとか、そのような感じですので、聞かなければならないのは本町における可能性とか課題のようなものになるかと思っています。それでいかがでしょう。勉強会というのはどうなのかと思います。

○委員長（広地紀彰君） 八木橋主査。

○主査（八木橋直樹君） 何度も言わせていただきますが、先方から求められているのは、白老町で活動されているコミュニティナースの実態があつて、その活動を踏まえたうえで島根県のコミュニティナースカンパニーに聞きたい観点とはどのようなことですかという、逆に質問を投げかけられておりますので、その観点から質問を考えていただければと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 実は、私も西田委員と同意見で、事前学習会をきちんと開いて、そのときにお越しいただけないだろうかとお話したのですが、今貳又委員からご説明があったとおり札幌在住ですし、難しいと聞いています。資料提供ということで把握する形を取りたいと思います。

西田委員。

○委員（西田祐子君） 資料提供をいただけるのでしたら、いつから始められて年間どのくらいの頻度で、白老町ではどのような悩みがあるのか。ざっくばらんでいいので概要の資料いただければありがたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） この件はよろしいですね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） それでは、その他、何かお持ちの方いらっしゃいますか。

森副委員長。

○副委員長（森 哲也君） 分科会の件なのですが、今回は水害の対策だとなかなか懇談相手が見つからないので、日程的に先方もあるので視察の前に間に合うかどうか定かではないところがあるのですが、相手方としてはコミュニティナースの方との懇談を考えていました。

○委員長（広地紀彰君） 暫時休憩いたします。

休憩 午後 3時20分

---

再開 午後 3時27分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

休憩中の議論も含めて、まとめていただきたいと思います。

森副委員長。

○副委員長（森 哲也君） 分科会の日程ですが、コミュニティナースの川田さんに頼もうと思っておりますが、相手方の都合等もありますので、なるべくなら視察の前でお願いしたいと思っているのですが、視察後になるかもしれません。日程調整については私のほうで行います。

○委員長（広地紀彰君） そのような対応でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） それでは、そのように進めてまいりたいと思います。

---

#### ◎閉会の宣告

○委員長（広地紀彰君） 以上で産業厚生常任委員会を終了いたします。

（午後 3時28分）